

農 村 青 年 社 事 件 判 決 文

判 決

本籍 茨城縣多賀郡荒川村大字上小津田百九十九番地

住居 前 同 所

著述樂

鈴木 靖 之

當三十五年

本籍 岡山縣吉備郡庭瀬町大字庭瀬五百三十五番地

住居 東京市荒川區尾久町四丁目千六百二十番地

無 職

裁 判 用 紙 裁 判 所

宮 崎 晃

當三十八年

本籍 鹿兒島縣肝屬郡垂水町田神三千三百八十七番地

住居 名古屋市東區千種町西森九十七番地

長野縣物產販賣幹旋所事務員

星 野 準 二

當三十二年

本籍 長野縣西筑摩郡福島町五千四百八十四番地

住居 大阪市此花區西九條二丁目本田柱八方

著述樂

八木あき

當四十三年

本籍 靜岡縣庵原郡内房村三百六十七番地

住居 東京市淺草區山谷町四丁目一番地ノ一

著述出版業

望月治郎

當二十六年

本籍 長野市大字長野横澤町七百五十番地ノ水

住居 前同所

彫版

裁判用紙

裁判所

田代健三郎

當三十一年

本籍 廣島市尾長町三百三十七番地

住居 同市尾長町三百四十二番地

製靴工

和佐田芳雄

當二十七年

右被告人鈴木靖之、同宮崎晃、同八木あき、同望月治郎及同

和佐田芳雄ニ對スル各治安維持法違反被告事件、被告人星野

準二及同田代健三郎ニ對スル各治安維持法違反被告人殿前被

告事件ニ付當裁判所ハ檢事島川英夫關與ノ上審理ヲ遂ケ判決
スルコト左ノ如シ

主 文

被告人鈴木靖之及同宮崎晃ヲ各懲役四年ニ處ス

右被告人等ニ對シテハ未決勾留日數中各貳百日ヲ右

本刑ニ算入ス

被告人星野準二ヲ治安維持法違反ノ罪ニ付懲役參年

ニ、犯人職置ノ罪ニ付懲役貳月ニ處ス

右被告人ニ對シテハ未決勾留日數中貳百日ヲ右懲役

參年ノ刑ニ算入ス

裁判用紙

裁判所

被告人八木あき及同田代健三郎ヲ各懲役貳年六月ニ

處ス

右被告人等ニ對シテハ未決勾留日數中各貳百日ヲ右

本刑ニ算入ス

被告人望月治郎ヲ懲役貳年ニ處ス

右被告人ニ對シテハ未決勾留日數中貳百日ヲ右本刑

ニ算入ス

被告人和佐田芳雄ヲ懲役壹年六月ニ處ス

右被告人ニ對シテハ未決勾留日數中百貳拾日ヲ右本

刑ニ算入ス

訴訟費用中證人田中喜一郎ニ支給シタル分ハ被告人
田代儀三郎ノ負擔、證人高野あさのニ支給シタル分
ハ被告人星野準二ノ負擔、證人金子廣只及岡平松秀
雄ニ各支給シタル分ハ被告人宮崎晃、岡星野準二及
岡田代儀三郎ノ連帶負擔トス

理 由

甲

被告人鈴木靖之ハ高等小學校卒業後村塾ニ通ヒ、家業ノ農ニ
従事シタルモ、十八才ノ時大志ヲ懷キテ上京シ、英語數學等
ヲ學ビ、神奈川縣鎌倉町鎌倉中學校第四學年ニ入學シ、大正

十三年同校ヲ卒業シタルガ、當時偶々教會ニ出入シ居リタル

トコロヨリ牧師タラント欲シ、明治學院神學部ニ學ビタルモ、

在學一年時ヲ否定シ、志ヲ更ヘ辯護士タラントシ、大正十四
年早稻田大學法科ニ入學昭和三年卒業シタルガ、右中學在學

中無政府主義者大杉榮ガ當時雜誌界ノ流行兒タルトコロヨリ
同人ノ論文等ヲ手ニシ、進ンデ同人ノ高説ニ接セントシタル

爲放校處分ニ遭ハントシタルコトアリ、次テ大正十二年大震
災ニ際シ同人殺害セラル、ヤ痛ク憤激シ、爾來無政府主義ニ

關心ヲ持チ内外無政府主義者ノ文獻ヲ涉獵スル内、遂ニ人類
ノ解放ハ無政府主義ニ依ル暴力革命ニ依テノミナサル、モノ

ナリトノ確信ヲ得、其ノ實踐トシテ早稻田大學在學中都下學
生ヲ糾合シ、A C學生聯盟ヲ創設シテ理論家ノ養成ニ當リ、
其ノ卒業後ハ無政府主義思想者クハ文藝雜誌「北極星」、「黑
色文藝」、「黑色戰線」、「無政府思想」、「自由人」ノ同人トシ
テ、外國無政府主義團體トノ連絡確立、個人的無政府主義ノ
克明、階級闘争說ノ清算、無政府主義文學論ノ確立、テオリ
ズムノ清算等ノ諸活動ニ盡力シ來リタルトコロ 更ニ我國農
村ノ革命的解放運動ノ展開ヲ企圖シ、被告人宮崎晃等ト係記
ノ如ク無政府主義結社農村青年社（略稱農青社）ヲ創立シ、
其ノ運動ニ從事シタルモ、被告人宮崎晃等重要ナル同志ガ暗

殺事件ノ爲秘葬セラレ、潰滅ニ瀕シタル處ヨリ其ノ發展の解

放ヲ望ミ、昭和七年九月二十七日附解散聲明書ヲ配付シテ右

農青社ヲ解散シ、其ノ後同年末ニハ一家沒落シテ離散スルノ
破目トナリ、一時古本屋ヲ開キタルモ、昭和八年末ヨリ經

濟難狀ヲ發刊シ、大方ノ援助ヲ求メテ生活シ來リタルモノ

被告人宮崎晃ハ大正八年三月福岡縣立小倉中學校卒業後銀行
員又ハ鐵道局職員トシテ勤メ、大正十四年六月勸學ノ爲上京

シ、東京市下谷區竹町日本労働學院ニ寄宿中、無政府主義者
梅本英三、大塚貞三 equal 等ト親交ヲ結ビ、同人等ヨリ誘致セラ

レ、其ノ後引續キ無政府主義ニ關スル諸種ノ文獻ヲ耽溺シ、

漸次同主幹ヲ信奉スルニ至リ、其ノ頃山口縣清等ト共ニ新聞
労働聯盟ヲ結成シ實踐運動ニ活動中、大正十五年九月頃日立
製作所ノ爭議ヲ應援シ、經營者久原房之助ノ邸宅ニ放火シタ
ル爲檢察セラレ、昭和三年一月放火罪ニ因リ懲役三年ノ判決
確定セントスルヤ、當時保釋中ナリシヲ以テ所在ヲ追跡シ、
上海、東京等各所ヲ轉々シ、其ノ間引續キ無政府主義ノ研究
ヲ爲シ來リタルモノナルガ、昭和五年三月頃ヨリ我國農村ノ
革命的解放運動ヲ展開セント決意シ、被告人鈴木清之等ト共
ニ後記ノ如ク發覺社ヲ創立シ其ノ運動ニ從事シタルモ、昭和
七年一月竊盜事件ニ因リ檢察セラレ、同年五月三十日東京地
方裁判所ニ於テ竊盜罪ニ因リ懲役八月ニ處セラレ、前記放火
罪ノ刑ト共ニ服役シ、昭和十年八月二十六日出所シタルモノ、
被告人星野幸二ハ二才ニシテ母ヲ失ヒ、老父ノ下ニ生育シ、
同縣本舞地福山中學二年修了後家庭ノ無味乾燥ナル感ヨリ無
断上京シ、藥局生ノ傍ラ夜間中學ニ學ビ、其ノ後京都、大阪
ニ於テ技工、藥局生トシテ過ス内、文學ヲ愛好シ、偶々無政
府主義思想若クハ文藝雜誌タル「文藝解放」、「黒色青年」ヲ
手ニスルニ及ビ、同主義ニ關心ヲ持ツニ至リ、昭和二年一月
再ビ上京シタル後ハ同主義運動ニ専從シ、同年十月入江一郎
等ト共ニ無政府主義文藝誌「行動者」ヲ發行シ、又其ノ發

行關係ヨリ被告人鈴木清之ト相知リ、共ニ文藝思想「北極星」
「黒色文藝」、「黒色戦線」、「黒色戦線」改題「黒旗」ヲ順次
發行シ、個人無政府主義ノ克服、階級闘争論ノ消滅、テオリ
ズムノ清算等ノ諸活動ニ盡力シ來リタルガ、「パンの略取」
發行署名人トシテ發覺セラレタル経緯ヨリ關西ニ於ケル運動
展開ヲ志シ、昭和五年十月末頃京都、大阪等ヲ轉々シ居ル内
生活費ニ困シ、金策ノ爲昭和六年一月二十日頃上京シ、東京
市外荏合町下荏合通柳目白文化村ナル被告人宮崎昌、同八木
あきノ住居ニ寄寓中、被告人宮崎等ト共ニ後記ノ如ク發覺社
ヲ創立シ、其ノ運動ニ奔走シタルガ、之カ運動中昭和七年六
月二十二日東京區裁判所ニ於テ住居侵入、竊盜罪ニ因リ懲役
一年六月ニ處セラレ、昭和九年一月八日服役出所シ、同正二
月末ヨリ長野縣物産販賣會所事務員ヲ爲シ來リタルモノ、
被告人八木あきハ明治四十五年松本女子師範學校本科ヲ卒業
後、家庭傾ケル感ヨリ、大正五年長野縣小學校教員科專科正
教員ノ資格ヲ得、其ノ後尋常學校講師ノ下ニ在リ一子ヲ設ケ
タルモ和合セズ、大正十年頃出離婚シ、爾來子供雜誌記者、
小學校教員、東京日々新聞社學藝部記者、雜誌「女人藝術」
編輯擔當者トシテ勤メ來リタルモノナルガ、大正十三年母死
亡後單身上京シ、就職先ヲ東京大學生等ヨリ共產主義理

論ヲ聞キ社會問題ニ興味ヲ覺エ、雜給生活者組合ニ出席シテ
共產主義ノ啓蒙ヲ受ケ、更ニ織造工場争闘ニ参加シタリシガ
大正十四年九月被告人岡崎見ト相知リ其ノ後同人ト内縁關係
ヲ結ブニ及ビ、同人ヨリ無政府主義ノ啓蒙ヲ受ケ、同人ニ追
從シテ之ヲ信奉スルニ至リ、同人カ昭和三年一月放火罪ニ因
ル懲役三年ノ處刑確定セントシ之ガ逃避生活ニ入ルヤ、自己
ノ厚薄生活等ニ依リ之ヲ擁護シ、尙自ラ雜誌「女人魔術」ニ
依リ共產主義者ト理論闘争ヲ交ヘ、女流無政府主義者一團ノ
文藝誌「婦人戦線」ノ同人ト爲リ、又無政府主義雜誌放劇場ヲ
組織シテ其ノ主役出演ヲ努ムル等一般的啓蒙運動ニ從事シ來

被告人岡崎見

被告人岡崎見

リタルガ、被告人岡崎カ無政府主義思想團體黒色青年聯盟
(略稱黒聯)ノ運動方法等ニ付反感ヲ拘キ、新ニ農村ニ運動
ヲ展開セント企圖シ、被告人鈴木不踏之等ト共ニ後記ノ如ク暴
行計ヲ創立シタルヨリ其ノ運動ニ参加シ之ニ從事中昭和七年
四月、物牙保罪ニ因リ懲役セラレ、同年六月二十三日東京區
裁判所ニ於テ回罪ニ因リ懲役六月及罰金五十圓三年間執行猶
豫ノ判決ヲ受ケ、且養育社ノ運動モ開始メ重要同志ノ入獄
ニ依リ清減ノ状態ニ瀕シ、其ノ後官廳上モ精神的犯罪ヲ生ジ
テ別ル、ニ至リタル爲爾後原稿生活ヲ送り、昭和十年十二月
大阪ニ至リ事務員ト爲リタルモノ

被告人岡崎見

被告人岡崎見

被告人岡崎月治郎ハ靜岡市ニ於テ高等小學校一年修業中倒産ノ
爲一家ト共ニ上京シ、電氣商會ノ徒弟又ハ電工ト爲リ、傳テ
電氣學校夜間部ニ學ビタルガ一家ノ轉落ト小學校教師ノ冷遇
ハ早クモ社會ヲ呪咀スルニ至リ、深ク考フル所ナク昭和三年
無政府主義系團體東京一般労働組合城北支部ニ加入シ、黒色
労働者聯盟ノ小村俊成、靜岡市無産者自治聯盟ノ澤田武雄ヨ
リ無政府主義ニ付啓蒙ヲ受ケ、昭和四年十月東京地下鐵工事
ニ於テ斗争指導者ト爲リ取首セラレ、爾來所謂「ルンペンア
ナ」トシテ無政府主義系労働組合ヲ轉々シ、一方同主義文獻
ヲ耽讀シテ其ノ意欲ヲ昂メ、昭和六年二月初旬芝浦労働争訟
ニ活動シタルガ、其ノ頃被告人鈴木不踏之ノ自田人社ヲ訪ネ往
來シ居リタル處ヨリ俊成ノ如ク無政府主義運動ニ参加シ、之ガ運
動ニ從事中、昭和七年六月二十三日東京區裁判所ニ於テ住居
侵入、竊盜罪ニ因リ懲役一年六月ニ處セラレ、昭和九年一月
一日服役出所シ、次テ黒色報紙ヲ引受ケ再び無政府主義運
動ニ從事セントシタルモノ、之ヲ中止シ、同年三月頃ヨリ小新
聞報ニ從事シ、大方ノ援助ヲ求メ生活シ來リタルモノ
被告人田代健三郎ハ小學校卒業後家貧シキ中ニ長野工業學校
ニ入學シタルモノ、在學一年有餘ニシテ學費難カズ、中途退學
スルニ至リタルガ、大正十二年吾學ノ目的ヲ以テ上京シ、機

具商店ニ勤ムル内、海外雄飛ヲ志シ、大正十四年上海ニ渡リタルモ、総統密輸入商店ヲ轉々シ、又積荷監督等ヲ爲シタルニ過ギズシテ昭和二年歸郷シ、其ノ後昭和四年ヨリ東京第一外國語學校英語科ニ約一年學ビタルモ、學費缺乏シテ退學シ尙其ノ頃ヨリ同郷關係ニテ無政府主義者大日方啓平、増田貞治郎其ノ他ト交リ、其ノ後同人等ト共同生活ヲ爲シ互ニ無政府主義研究ニ没頭シ、同主義文獻ヲモ涉獵シ、被告人星野直二、同八木あきト相知リ、昭和五年十月末右星野力下阪スルニ際シ、同人ト同道シ、同年十二月初旬ヨリ大阪アナーキスト青年聯盟事務所ニ起居シ、同所ニ於テ被告人和佐田芳雄及

裁判用紙

裁判用紙

平松秀雄其ノ他無政府主義者ト相知リ、右平松ノ勸告商店ニ於ケル賃金値下爭訟ヲ應接スル等ノ活動ヲ爲シ居リタルトコロ、被告人宮崎、同星野ノ兩名カ昭和六年二月下旬來阪セル虞ヨリ、後記ノ如ク農青社運動ニ參加シタルガ、農青社解散後ハ東京ニ於テ店員ヲ爲シ、同志ノ出所ヲ待チタルモ、其ノ出所後同志ト感情上疎隔シ、株式会社員ヲ勸メ居ル内昭和九年八月父死亡ニ依リ歸郷シ、家業ノ庇護ニ從事シ來リタルモノ被告人和佐田芳雄ハ小學校二年ノ頃、叔母ガ婚家ヨリ離別セセラレ癡狂スルニ至リタルハ自己等カ一般人ト社會的立場ヲ異ニシ之ヲ想シミタルニ基因スルヲ知り、其ノ差別ト貧困ガ

謂ハレナク自己等ヲ迫害スルモノナルコトヲ痛ク憤激シ、爾來事毎ニ反抗意識ヲ持チ、小學校六學年ニシテ早クモ水平社運動ニ關與シタルガ翌年牧師ニシテ無政府主義者タル八田舟三ヨリ無政府主義ノ社會理想ヲ聞クニ及ビ、全ク其ノ理論ト其ノ人物ニ傾倒シ、水平社運動ノ眞ノ解放ハ無政府主義ニ依ル外ナシト信ズルニ至リ、高等小學校一年修了後、家業ノ繼承ニ從事スル傍ラ、右八田ヨリ同主義ノ啓蒙ヲ受ケ、無政府主義文獻ヲ涉獵シ、大正十五年八田ガ廣島市ヲ去リタル後ハ無政府主義運動及水平社運動ノ實踐ニ參加シ、昭和四年無政府主義研究會「無首領者」同人ノ招請ニ應ジテ上阪シ之ニ參

裁判用紙

裁判用紙

加シ、次テ同志ト共ニ黒色青年自由聯合、アナーキスト青年聯盟ヲ形成シ、出版活動ノ外其ノ影響下ノ各職場組合ノ團體ト共ニ小作爭議、勞働爭議等活潑ナル闘争ヲ展開シ居リタルガ、大阪ニ於ケル運動ニ行詰リヲ感シ、同志等ガ順次上京セル虞ヨリ、自己モ亦東京ニ於テ新ナル運動ノ展開ヲ試ミント欲シ、昭和六年八月末上京シ、次テ後記ノ如ク農青社運動ニ參加シ、之ガ運動ニ從事中昭和七年六月二十三日東京區裁判所ニ於テ住居侵入、竊盜罪ニ因リ懲役一年六月ニ處セラレ、昭和九年一月五日服役出所シ、被告人鈴木、同望月方等ヲ觀々シ居リタルモ、同年十一月歸郷シ父ノ製靴業ヲ助クルト共ニ

部落改善事業ニ從事シ、今日ニ至リタルモノ
而シテ被告人等ノ信譽シ居リタル無政府主義ハ人類ノ最も自
由平等ニシテ幸福ナル社會ハ一切ノ強權的支配ナク、私有持
取ナキ農工合體ノ一小社會、即チ自由コンミュニツト樹立シ、
其ノ各自由コンミュニツトノ自由聯合ニ依リ建設セラル、無政府
共產社會ニ在リト爲シ、政治的ニハ一切ノ權力の支配即チ強
權ヲ否定シ、之ニ代フルニ相互扶助ニ基ク自主自治ヲ以テシ、
經濟的ニハ私有財產制ヲ否認シ、之ニ代フルニ共產制ヲ主張
スル社會革命思想ナルトコロ

裁判所

第一被告人宮崎見ハ昭和五年頃ヨリ我國ニ於テ日本共產黨其
ノ他革命運動ガ熾烈ナル勢ヲ以テ進展シツ、アルニ拘ラズ
當時黒色青年聯盟等無政府主義團體ハ都市ニ其ノ運動ヲ重
視シ、運動方法中央集權化スル等幾多ノ誤謬ヲ犯シ、尙同
志ノ生活態度甚シク無賴漢化シ、爲ニ無政府主義運動ハ大
衆ト遊離シ、萎靡沈滞、無力化シツ、アル情勢ニ刺激セラレ
且當時農村不況、農民ノ窮乏甚シク、之ヲ坐視スルニ忍ビ
ズ、無政府主義ニ依ル新ナル運動ノ展開ヲ農村ニ求メ、昭
和六年「黒旗」二月號ニ「農民に訴ふ」ト題シ激鋭掲載シ、
農村解放ノ道ハ農民ガ農村ヲ骨子トスル農工合體ノ共同社
會建設ニ明確ナル目標ヲ置キ、現在社會組織ト關係ナク、

裁判所

農民自ラノ手ニヨリ現實生活ノ中ニ自給自足ノ實行、共產
ノ實行、共存共榮相互扶助ノ實行ナル經濟行動ヲ起シ、現
在社會ノ中心タル經濟制度ヲ衝キ、支配階級ヲ打倒シ以テ
社會組織ヲ變革シ、理想社會ヲ實現スルニ在リ、而シテ、解
放ヲ妨グル一切ノ妨害、反動ニ付テハ極力闘フベク、之ガ
運動ニ對スル支配階級ノ壓迫ニ對シテハ自覺セル農民等民
衆ノ中ヨリ已ムニ已ミ難ク、抑フルニ抑ヘ難クシテ頑キ出
ヅル創造的暴力ニ依リ肉迫スベキノミ特新ナル革命運動ノ
方針ヲ樹立提唱シタルガ、當時偶々被告人星野進ニ於テ
上京寄寓中ナリシニヨリ右「黒旗」二月號ニ掲載ノ「農民
に訴ふ」ヲ示シ、其ノ意見ヲ求メ共ニ之ガ運動ヲ爲スベキ
コトヲ提言スルヤ被告人星野モ亦豫テヨリ無政府主義運動
ヲ地方ニ展開セント企圖シ居リタル際ナリシカバ直ニ之ニ
賛同シ、被告人鈴木端之ハ農村ノ疲弊困憊ノ狀ヲ親シク體
驗シ、我國農村ノ現實生活中ニ政治權力ニ拘ラズ自主自治、
自給自足ノ實踐ニ依リ村平和ヲ保持シツ、アル所謂無政府
ヲ多分ニ見、然モ之ガ自然的成長性アルニ拘ラズ發展成長
セザルハ強權、資本、都會、即チ強權主義的ナル政治、經
濟、倫理ガ之ヲ妨害シツ、アルニ依ルモノナリト爲シ、農
村ノ眞ノ解放ハ是等妨害物ヲ除去シ、所謂無政府ヲ其ノ自

然成長性ニ於テ發展促進セシメ、無政府主義革命ヲ敢行スルニ依リテノミ達ゲ得ルモノトノ確信ヲ篤キ、當時黒聯ノ運動方法等ニ不滿ヲ持チ自由人社ニ依リ同志ヲ糾合シ、尙昭和五年八月頃「農村青年に訴ふ」ト題スルパンフレットヲ出版シ、農村解放ノ原理ハ強權、資本、都會ヲ排シ、自主自治ヲ確立シ、自給自足ヲ徹底シ、自由聯合ノ實現ヲ期シ以テ無政府共產社會ヲ建設スルニ在リト提唱シ、昭和五年十二月末頃在京無政府主義者大會ニ於テ農村運動ノ急務ヲ叫ビタルヨリ傍聽セル被告人八木あきヲ通ジ、被告人宮崎ノ知ル處ト爲リ、尙被告人星野ト被告人鈴木トハ豫テヨ

裁判所 裁判所 裁判所

リ執知ノ間柄ナリシカバ、茲ニ被告人宮崎、同鈴木及星野ハ昭和六年二月十二日頃東京市外落合町下落合通稱目白文化村ナル當時ノ被告人宮崎及同八木ノ住居ニ會合シ、從來ノ無政府主義運動ノ都市中心主義ヲ排シ、農村ヲ骨子トスル新ナル運動ヲ展開シ、中央集權化ヲ排シ自主分散聯合運動ト爲シ、又破壞アレバ自ラ無政府共產社會ノ實現ヲ見ルベシトノ樂觀的暴力論ヲ排シ、人的經濟的自然的條件ノ下ニ農工合體ノ一小社會即チ自由コンミュン、一名自由村落ヲ形成シ得ベキ地理區劃（現在ノ新村若クハ一部又ハ一縣等ニ散在スル地域）ニ自主自治、自給自足ノ實踐タル全村

裁判所 裁判所 裁判所

運動ヲ進展セシメ、經テ必然的ニ強權ト衝突スルニ至リタル場合無政府共產社會ノ實現ヲ遂ゲン爲自覺セル民衆ノ中ヨリ際上ル暴力ヲ以テ無政府主義革命ヲ完行スベシトノ所謂「建設ニ於ケル破壊」即チ「建設的暴力」ニ依ルベシ等ノ基本的素地事項ヲ協議シ、因テ運動形態ヲ分散聯合ノ自主行動ニ置キ、我國農村ヲ中心トシテ無政府主義ノ浸透ヲ圖リ、自由コンミュンノ樹立之ガ自由聯合ニ依ル無政府共產社會ノ建設ナル目標ノ下ニ、農民等民衆ヲシテ現實生活ノ中ニ自主自治、自給自足ヲ實踐化セシメ、之ヲ全村運動ニ提揚シ、各地理區劃ノ緊密ナル連絡ノ下ニ、極テ強權ノ壓迫ニ反抗シ民衆ヨリ湧起スル各地理區劃ノ同時蜂起並之ニ伴フ都市無政府主義者ノ都市焼却ナル暴力革命ニ依リ各地理區劃ニ自由コンミュンヲ樹立シ其ノ自由聯合ニ依リ現政治權力等一切ノ強權並現經濟機構ヲ廢滅シタル無政府共產社會ノ實現ヲ目的トスル結社ヲ組織シ、同月二十日頃之ガ名稱ヲ農村青年社（略稱農青社）ト爲シ以テ被告人宮崎、同鈴木及同星野ハ我國體ヲ變革シ、私有財産制度ヲ否認シ、無政府共產社會ノ實現ヲ目的トスル結社ヲ組織シ

第二

(一) 被告人八木あきハ農青社組織當時即チ昭和六年二月頃被